

『ゴルフとは、自らを自らで励ますこと。』



バリューゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

変化する韓国女子プロ選手

今期の日本女子ゴルフツアーが中盤戦を迎えている。昨年からツアーの優勝者の顔ぶれが少し変わってきたのをご存知だろうか。

それは、韓国勢の力が衰えはじめ、日本の若手の台頭が目覚ましいことだ。韓国勢というと、おなじみのイ・ボミ選手や、キム・ハヌル選手、4度目の賞金女王を手にしたアン・ソングジュ選手。常時、世界ランキング上位にいる申ジエ選手など、日本ツアーは韓国女子プロで席巻されていた。様々な理由が考えられるが、体力的にも、精神的にも、技術的にも日本人よりやや上ではないかと、評価も高い選手たちだ。ところが、この流れが明らかに変わってきたのが今期である。ダイキンオーキッドレディスの比嘉真美子選手からはじまり、ヤマハレディスオープン葛城の成田美寿々選手まで、なんと日本の女子プロの開幕5連勝である。

一方で、韓国入選手の陰りが見え始めている。個人的には、彼女たちの実力が下がっているわけではなく、「黄金世代」と言われる日本人の若手の実力が確実に上がってきているのだ。勝みなみ選手、畑岡奈紗選手などをはじめ、若い頃からの猛特訓と海外のツアーで採まれた成果だと思われる。

韓国では、30代の選手の後ろにいる20代の選手たちは、日本よりも米国ツアーを好む傾向にある。現在、世界ランキング1位のコ・ジンヨン選手の他、パク・ソンヒョン選手、チョン・インジ選手など、いとも簡単にツアーの上位に顔を出し、それと同時に世界ランキングのポイントも大きく影響している。

この傾向が続くと、日本の女子ゴルフツアーに参加する韓国選手は少しずつ減っていく。日本のツアーのあり方もQT出場資格なども含め、見直さなければならぬ時期に来たのかもしれない。

アジアというエリアを考えると、韓国だけでなく、台湾、中国、タイ、ベトナム、シンガポール、フィリピンなど、日進月歩でゴルフは国際化してきた。やがて、アメリカ対アジア、あるいはヨーロッパ対アジア、などの新しいワールドツアーが誕生し、その中で先進国の日本がリーダーシップを発揮する時代がくるのかもしれない。何れにしても、来年の東京オリンピックで日本選手が活躍し、世界レベルの評価を高める実績を残せたらと期待するのである。



戸張 捷 Sho Tobari

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。